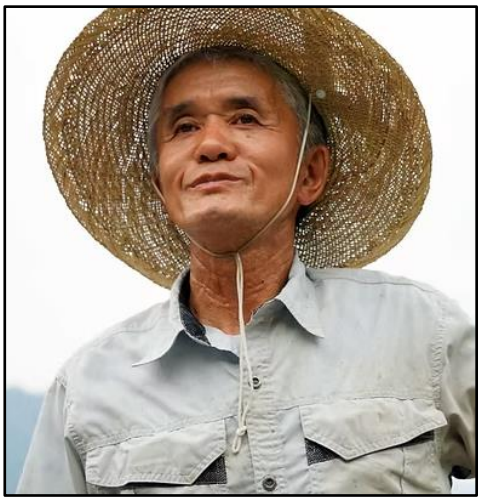
令和７年度「伝統工芸の匠」プロフィール



【伝統工芸の匠】

１　産　　地　越中和紙（五箇山和紙）

２　氏　　名　宮本（みやもと）　友信（ともの ぶ）

３　生年月日　昭和 31 年３月 24 日生　69 歳

４　勤 務 先　東中江和紙加工生産組合（南砺市東中江 582）

５　略 歴 等

- 平成 ７年５月～　富山県和紙協同組合理事に就任
- 平成 13 年５月～　越中和紙伝統工芸士会会長に就任
- 平成 26 年５月～平成 28 年５月、
  令和 ６年５月～　富山県伝統工芸士会会長に就任
- 令和 ２年６月～　日本伝統工芸士会幹事に就任

６　受 賞 歴

- 平成 26 年 11 月　日本伝統工芸士会功労者表彰 受賞
- 平成 27 年 11 月　中部経済産業局長表彰 受賞
- 令和 元年 11 月　富山県功労者表彰 受賞
- 令和 ４年 12 月　文化庁長官表彰 受賞
- 令和 ７年 １月　三井ゴールデン匠賞 受賞

７　越中和紙の概要

富山県内には八尾和紙・五箇山和紙・蛭谷和紙の３つの和紙産地があり、その総称が越中和紙。各産地によって和紙の特徴が異なる。八尾和紙は元々「売薬」用の包み紙から生まれ、鮮やかな型染の和紙が特徴。五箇山和紙は、江戸時代に加賀藩の御料紙として製造され、自然素材のみで作られた和紙は文化財の修復用紙としても使用される。蛭谷和紙は朝日町蛭谷地区で製造される和紙であり、過去に比べて事業者が大きく減少しているが、和紙文化の復活に向けて活動を進めている。

８　悠久紙の概要

かつて加賀藩の御料紙として北陸地方一帯で使われた五箇山和紙の伝統を色濃く受け継ぐ漉元。自家製楮と糊のみを使い漉き上げる伝統的な製法の紙は、桂離宮や名古屋城をはじめ、国内外の名だたる文化財の修復用紙としても使われている。経年で黄ばむことのないその紙は 1000 年持つとされ、事実 100 年前に使用された帳面類を基に、復刻版「大福帳」が生み出された。着色紙は全て五箇山で採れる天然染料を用いた草木染めで、優しい風合いを醸し出している。

【宮本氏作品】

帽子

ランチョンマット

金封

まめ金封（2 枚セット）

印鑑ケース

がま口財布